

IV 企画開催報告

明治大学教育会 ZOOM企画 『明日の授業に取り入れよう～ICTを活用した授業づくり講座～』

根本 太一郎（土浦日本大学中等教育学校教諭）

1 日時 2024年3月15日（金）20時～21時30分

2 開催方法 ZOOM によるオンライン開催

3 参加者数 25名
明治大学教育会会員

4 目的

- ・ICTを活用した授業実践の情報共有を通して、会員の指導力の向上を図る。特に、現場ですぐに実践できるアプリケーションの活用法や指導の手立てを提案する。
- ・多様で先駆的な授業実践に触れることや講師からの資料配布を通して、明日からの授業改善のヒントを得る。
- ・本企画を通して、明治大学教育会の会員の相互交流・親睦を図る。

5 企画・運営者略歴

- ・土浦日本大学中等教育学校 教諭 根本太一郎

土浦日本大学中等教育学校教諭社会科主任。明治大学文学部史学地理学科西洋史専攻卒業。一般企業勤務等を経て、福島県公立学校にて8年間勤務後、現職。歴史教育を核に高等教育機関との連携を図りながら、国際理解教育、金融教育、防災教育の実践・研究を進めている。明治大学教育会事務局員、初等中等金融経済教育ワークショップ事務局長、FES コンテストアンバサダー、関東ESD活動支援センターアドバイザー。主な著作はおもな著作物に『学校は甦る』（扶桑社新書、共著）『社会科「個別最適な学び」授業デザイン事例編』（明治図書、分担執筆）などがある。

- ・佐渡市立高千中学校 教諭 小田 和也

2010年度明治大学文学部史学地理学科考古学専攻卒業。2012年度同大学院文学研究科臨床人間学専攻修了。文学修士。2013年度新潟県佐渡市公立中学校非常勤講師。2014年度佐渡市役所採用。同年佐渡市教育委員会社会教育課配属。2017年新潟県社会科教諭採用。新潟県見附市西中学校赴任。2020年度同県佐渡市高千中学校赴任。2024年度同県佐渡市立佐和田中学校赴任。1学年主任を務める。

6 講師略歴

- ・ 国立大学法人お茶の水女子大学附属中学校 国語科教諭 渡邊 光輝 様
(経歴)

1999 年明治大学文学部卒。同年から千葉県公立中学での勤務をスタートし、その後千葉大学教育学部附属中学校に勤務。2006 年からはお茶の水女子大学附属中学校国語科教諭、司書教諭として勤務。

お茶の水女子大学、國學院大學、和光大学非常勤講師を併任。表現教育、情報活用能力育成、メディアリテラシー教育、ICT 活用に焦点を当てて研究・実践を進めている。教科書研究センター委員、教科書編集委員、E テレ教育番組の委員など、ICT 活用、デジタル教科書や教育メディアに関する研究プロジェクトにも参画している。

Google for Education 認定イノベーター (JPN19)

7 はじめに

文部科学省による GIGA スクール構想が始まり、本格的に ICT 活用について実践が蓄積されるようになって久しくなってきました。ICT 環境の充実を図り、それによって教員や児童生徒の力を最大限に引き出されてきたと、この何年かを振り返って思います。文部科学省が 2019 年に提唱し、全国の小・中学校、高等学校等で 1 人 1 台のコンピュータ（もしくはタブレット）の整備等が進められました。この動きは 2020 年以降のコロナ禍においてより一層拡大し、オンライン授業の配信や、端末を通じた課題の配布、協働編集などが推進されていきました。

1 人 1 台端末の動きが拡大し、全国の公立の小学校等の 96・1%、中学校等の 96・5% が、「全学年」または「一部の学年」で端末の利活用を開始しています（参考：「GIGA スクール構想の実現へ」〔文部科学省〕https://www.mext.go.jp/content/20200625-mxt_syoto01-000003278_1.pdf）。

実際の授業でも、1 人 1 台端末を活用による映像資料の配信、ひとつのファイルを複数人で協働編集、意見交流の円滑化などが行われてきました。結果、これまでの画一的な一斉授業から、多様化した学習形態へと変化してきました。実際の現場では、より一層の活用が進んでいますが、多様化したツールをどのように使用し、生徒の学びを最大限に引き出すためにどのように行うか、いまだに議論が続いています。また、効果的な活用の仕方については模索が続いています。本企画では、ICT 活用の第一人者である渡邊先生をお招きし、最新の実践事例についてお聞きするとともに、授業への取り入れ方や活用にあたっての考え方を教育会の会員の皆さまにお届けしたいと思って企画しました。以下のような形で実施しました。以下には企画の概要として、渡邊先生の講話、そして企画者である私と小田の実践事例紹介の要旨を記します。ぜひご覧になっていただき、当日の学びを振り返ってもらう材料にしていきたいと思います。

8 企画の概要

- ・ 国立大学法人お茶の水女子大学附属中学校 国語科教諭 渡邊 光輝 様

今回の研修会では、「生徒が活躍する ICT 活用授業のつくり方」をテーマに、国語を中心とした ICT を活用した授業の実践的な方法が紹介された。

研修は二部構成で行われた。最初に、2014 年からの ICT 導入の変化を振り返り、Google Workspace や Chromebook を活用した効率的で創造的な学びの事例が示された。次に、生徒が主体的に学ぶ授業の設計方法について解説があり、読むことの学習プロセスや ICT 活用の具体例が提示された。また、評価方法としてルーブリックを活用したパフォーマンス課題が取り上げられ、これによって生徒の理解度や表現力を深く測る重要性が語られた。

研修の最後には、質疑応答や授業事例の共有が行われ、参加者同士でアイデアを交換し合う場となった。

この研修は、ICT を活用した授業設計の具体的な方法を学ぶとともに、生徒が主体的に学びに取り組む新たな可能性を考えるきっかけとなる有意義な内容だった。

・佐渡市立高千中学校 教諭 小田 和也

私は新潟県佐渡市の公立中学校で社会科教諭を務めており、ICT を通じて生徒の学びを深めることを目指しています。タブレット端末を活用し、生徒が他者との対話を通して、思考力・判断力・表現力を高めるため、クラウド上で即時共有・記録することを重視しています。

本講座では、ICT を活用した社会科や総合的な学習の時間の授業づくりの実践について報告しました。

社会科では、Excel を使った「ワンペーパーポートフォリオ (OPP)」を導入し、単元のまとめや振り返りで生徒の思考を可視化しました。PowerPoint によるまとめ資料作成も共同編集で行い、生徒が主体的に学びを整理できるようにしました。そうすることで、生徒の対話が促進され、より深い社会科の学びにつながったと感じています。

総合学習では、グループでの成果物を共同編集させたり、演目発表では生徒が Zoom で遠隔地（地域の文化財団や、市が連携している関東の大学生）とつながったりしました。こうすることで、生徒が他者の進捗状況を把握して適切な対話をすると同時に、自己有用感を感じられやすくすることにつながりました。

ICT の活用により、生徒同士の思考交流が促進され、思考力・判断力・表現力が深まるなど、多くの成果が得られています。一方で、Wi-Fi 環境の不安定さやアナログを好む生徒への対応が課題です。デジタルとアナログを選べる環境を整え、より効果的な授業づくりを模索していきたいと思います。

・土浦日本大学中等教育学校 根本太一郎（当時は檜葉町立檜葉中学校 所属）

今回の研修会では、「明日の授業に取り入れよう～ICT を活用した授業づくり講座～」というテーマで、授業における ICT の活用例を模擬授業という形で紹介しました。取り上

げた題材は、「中学校3学年 公民的分野 4節財政と国民の福祉 3 社会保障の仕組み」となります。まず、はじめに『The Walk』という映画を視聴し、本時で取り上げる題材へのイメージを喚起します。次に、「綱渡り＝人生」というスライドを示し、インパクトを与えます。安全に過ごすための人生にとって必要なものとは？と問い、社会保障制度を「セーフティネット」と捉え、その目的や今後の在り方について考える見通しを持たせます。次に、Google Forms を活用します。社会保障制度の成立の背景や実際の制度について、生徒の既存の知識を汲み取ります。上記の活用によって、クラス全体の意見、特に集団でなかなか発言をすることが難しい生徒の考えも引き出すことが可能になります。また、回答結果を投影することで、生徒一人ひとりの記述の意図も確認することが可能です。本時の中心発問として、「もし〇〇がなかったら」という題で、「社会保険・公的扶助・公衆衛生・社会福祉」の制度がない社会について想起します。それぞれがなかった世界について、padlet に項目を分けて入力することを促します。生徒たちは、この直前に視聴した Youtube の映像をもとに考えをまとめていきます。まとめ場面では、「これからの日本は、どんな施策を目指すべきか」という問いに対して、自分の考えをまとめます。まとめの記述の材料として、スプレッドシートと padlet の記述を利用します。生徒たちはそれぞれを参照しながら、本時の学びを振り返ります。

このように、授業のねらいに応じて、映画やニュース映像を用いることで、生徒の生活体験に繋げて考えることが可能になります。また、複数のアプリケーションを用いることで、より生徒の考えを引き出し、実社会との接続が図れたと思います。今後の課題として、生徒の記述をもとにした評価基準の整合性や意見交流の機会の確保が求められると改めて実感しました。

9 参加者から

- ・具体的な実践例が聞けたことがよかった。
- ・自分の質問への回答が非常に参考になったためです。ありがとうございました。学校単位でももう少ししっかりギガタブの管理をしてもらえたらいいのですが…。
- ・具体的にパワーポイントやワードをただスクリーンに写すしか無かったので、振り返りの方法や、生徒同士で話し合う際の活用方法などより実践的なやり方を知ることが出来た。
- ・漢詩の風景を AI に作られる方法がとても印象に残った。
- ・渡辺先生の国語の授業で漢詩の風景を想像させるために生成 AI を活用することについては子供達の読み取る力や想像力・伝える力を育成することにも繋がられ、私も実践していきたいと感じたためです。
- ・授業を通して、ICT を使った教育の例や使ってみてどうだったかなど、今後の授業づくりに大きく役立つような情報を知り、今後に生かしたいと思いました。
- ・私の ICT 活用は、資料を見せるだけでしか活用ができておらず、上手く活用ができていませんでしたが、今回先生方の実践例をお聞きして今後私も活用していきたいと感じ

ました。

- ・先生方それぞれ様々な実践をされており、子供達に対する熱意を感じました！私ももっと子供達の視野を広めていけるような ICT 活用を目指していきたいと思います！
- ・益々のご活躍を期待しています。
- ・明大出身の教育界で活躍されている方がこういう形でいらっしゃっていて大変嬉しく思っています。ありがとうございました。

10 おわりに

本企画は、2024年7月に渡邊先生の授業を視察したことが始まりでした。生成 AI のガイドラインを PDF で共有し、そのファイル上で生徒が活発に意見交流をしたり、読み込んだ後の考えを交わしあったりする姿を見て、「自分もこのような授業を実現したい」と強く感銘を受けました。ICT の活用により、これまででは難しかった相互の交流の場面の確保や協働編集による創作活動など、学びの幅が広がっています。一方で、ICT の利用は手段でしかありません。それを目的化してしまうと、何のために使っているのか目的を見いだせなくなってしまう、形骸化してしまう学びへとつながってしまう難しさも感じます。あくまで生徒たちの資質・能力を育むための手段として、より良い活用の在り方について、これからも研究を重ねていきたいと思います。

11 資料(告知用に活用したチラシ)



明治大学教育会ZOOM企画 明日の授業に取り入れよう ～ICTを活用した授業づくり講座～

○日時・開催方法

2024年3月15日(金)

20:00～21:30 オンライン(ZOOMを活用)

○参加費 無料

○対象

明治大学教育会会員

○内容

(1) 開会あいさつ・趣旨説明(5分)

(2) 授業実践紹介(50分)

・国立大学法人お茶の水女子大学附属中学校

教諭 渡邊光輝(30分)

・新潟県佐渡市立高千中学校

教諭 小田和也(10分)

・福島県双葉郡楳葉町立楳葉中学校

教諭 根本太一郎(10分)

(3) パネルディスカッション(20分)

(4) 振り返り・閉会行事(5分)

・本企画全体を総括する時間を行う。

○申し込み期限

・第一次申し込み: 3月13日(水) 18時まで

この日まで申し込み頂けた場合、ZOOMアドレスを
3月14日(木) 午前中まで送付致します。

申し込みはこちらから →



【趣旨説明】

- ・ICTを活用した授業実践の情報共有を通して、会員の指導力の向上を図る。特に、現場ですぐに実践できるICTスキルの紹介や資料の配布を通して、アプリケーションの活用法や指導の手立てなどを提案する。
- ・多様で先駆的な授業実践に触れることや講師への質問を通して、明日からの授業改善のヒントを得る。
- ・本企画を通して、明治大学教育会の会員の相互交流・親睦を図る。

【講師紹介】

1999年明治大学文学部卒。同年から千葉県公立中学での勤務をスタートし、その後千葉大学教育学部附属中学校に勤務。2006年からはお茶の水女子大学附属中学校国語科教諭、司書教諭として勤務。お茶の水女子大学、國學院大學、和光大学非常勤講師の3大学での勤務を併任。表現教育、情報活用能力育成、メディアリテラシー教育、ICT活用に焦点を当てて研究・実践を進めている。教科書研究センター委員、Eテレ教育番組の委員(「プロのプロセス」「アッ!とメディア〜@media〜」)など、ICT活用、デジタル教科書や教育メディアに関する研究プロジェクトにも参画している。Google for Education 認定イノベーター(JPN19)

問い合わせはこちらまで↓

事務局:taichi.nemoto1065@gmail.com(根本太一郎)